

令和 7 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校団長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。 評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

尼 崎 市 立 琴ノ浦高等 学 校

令和7年度 学校評価

【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

- 1 個の尊厳や人権の尊重
- 2 未来志向の教育
- 3 家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]

- 1 コミュニティスクール制度を活用して地域関係者や保護者、生徒の意見を反映させた、生徒主体の開かれた学校づくりの推進
- 2 職員研修会や先進校視察等による、多様な生徒のニーズに対応する指導力・対応力の強化並びに組織体制の活性化

学校評価の観点

<p>1 学ぶ力と健やかな体の育成</p> <p>(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。</p> <p>(2) 多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切に、課題解決能力を高める学習を充実を図る。</p> <p>(3) 運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。</p> <p>(4) 給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解啓発を図る。</p>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.0	3
取組	成果	課題と改善策
令和4年度入学生から実施した観点別評価を踏まえ、より本校生徒にあった評価方法を各教科で研究する。(教務部)	各教科で研究し、教科特性、外国籍や多様な特性を持つ生徒への指導や評価の方法に関して議論を深め、より本校生徒にあった実践ができた。	多様な背景をもつ生徒が多く入学した。特に外国籍の生徒が増加し、主要言語の違いに加え、日本語の理解度の差が大きく、個別の対応にしている。次年度以降も外国籍や特性を持つ生徒が多く入学することが予想される。市教委と連携した対応の充実が課題である。
授業中にスタディサポーターに参加してもらい、授業内容を理解が十分できていない生徒や、文字を読むことが困難な外国人生徒の補助をしてもらう。(基礎学力向上委員会)	外国籍や多様な特性を持つ生徒の入学生が増加し、スタディサポーターの協力を得て授業のサポートをすることができた。	定時制高校という特性もあり、時間的にスタディサポーターを引き受けてくれる人材が不足している。サポートを必要とする生徒の増加が予想できる状況を踏まえ、特に日本語支援を含めたサポーター人材の確保が課題である。
給食アンケートを1月に実施する。(総務部)	アンケート結果を受け、宅配給食弁当に対する実態を把握することができた。	宅配給食弁当について、R11年度からの給食補助金廃止予定を含めて、学校給食課と連携して今後の方向性をまとめる必要がある。
1年生「総合的な探究の時間」について、各系列で特色あるオリエンテーションを行い、各系列の担当教員からそれぞれの系列に興味をもってもらえるような学習活動の説明や体験学習等を行う時間を確保する。(教務部)	年間で3回の系列体験後に仮系列を実施し、2年生進級後の系列希望調査を実施した。生徒の興味・関心や進路希望に沿った系列を全ての生徒が各自で選択することが出来た。	比較的スムーズに系列体験希望調査を行うことができた。2年次以降の系列確定に向け、特に工業系列において、発達特性上の課題から危険を伴うケースが発生した。そのため事前実習等で説明の見直しや保護者を含めた面談等の機会を設ける必要がある。

<p>2 多様性と包摂性のある教育の推進</p> <p>(1) 支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。</p> <p>(3) 共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。</p>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.0	3
取組	成果	課題と改善策
特別支援委員会、特別支援コーディネーターを中心に、特別支援シートの作成、とりまとめを行い、本校で支援が必要な生徒の把握に努めた。(特別支援委)	特に1年生の状況を授業見学していただき、得られた助言等を支援・指導に生かした。有識者による職員研修では特別な支援を要する生徒の生徒指導に関する研修を行い、得られた内容を指導に生かした。	巡回相談員や有識者による助言は効果的であったので、特に1年生については1学期の早い時期に生徒の状況に応じた支援方法について、今後も継続して助言の機会を設けたい。また、対象生徒の状況や改善・成長等についての情報共有を効果的に進める必要がある。

3 豊かな心の育成といじめ防止の取組		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。 (2) 命を大切にす心や思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。 (3) 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。 (4) 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。		3.3	3.5
取組	成果	課題と改善策	
人権学習を、全生徒・教職員を対象に実施している。教職員には、夏季休暇中に参考資料を提示して、自主研修を促す試みを実施した。本年度は、外国人の日本語学習を促す参考資料を提示し、教職員、保護者、生徒が学習するきっかけとノウハウを研修できるよう試みた。生徒には、教職員も対象に人権講話を外部講師を招聘し、「発達障害の特性と総理解」のテーマで実施した。各学年ごとの人権学習は、人権課題を明文化し各学年でテーマを決めて、年度内に学年別の人権学習を行った。(人権委員会)	本年度の夏季教職員自主研修では参考資料から、外国籍生徒の日本語学習を促し、教職員、保護者、当該生徒が考えるきっかけとノウハウの学習ができた。外部講師による全校生徒の人権講演会では、教職員も生徒も発達障害の特性に触れて自分や他者とのかわりについて考えることができた。各学年ごとの人権学習は、各学年の教職員が今の生徒に何が必要かを考え、テーマを決めて実施している。事後のアンケートを実施して今後の指導に活かしていく。	人権学習は、講演会や学習会の時だけではなく、平素から教育活動全体を通して行う必要がある。本校では、生徒向けの人権学習について、全校・各学年生徒向けと年度1回ずつ実施している。今後は必要があれば短時間でも、多様なジャンルをテーマとして回数を増やして実施することを検討する。インターネット上にも優れた教材があるので、生徒の実態に沿ったテーマを決めて、LHRや学年集会などでの人権学習を検討していく。	
いじめ対応については、各学期にアンケートを実施し、実施の際にいじめの定義を確認する。生徒がよりアンケートに答えやすい環境を作るために、実施方法について教職員と相談し実施する。(生徒指導部)	生徒からの意見を集約することができた。また、生徒への丁寧な聞き取り、対応をすることができた。	アンケート結果が出てきた際に、より迅速で市教委を含めた組織的な対応、情報共有を心掛けるようにする。またアンケートの内容について、生徒の意見が聞き取りやすいように検討・改善する。	
スクールカウンセラーによる生徒の面談、また、職員研修ではカウンセリング講習を実施する。(総務部)	生徒のメンタルサポートに高い効果が上がっている。また、カウンセリングの回数・時間が増えたことにより、継続的な相談や緊急的な事案にも対応できるようになった。また、本校の具体的な事象を扱った職員研修の実施により、本校の状況や実態に合った対応が可能となった。	カウンセリングは授業時間に行うが、公欠扱いにしていることで活用は進んでいる。また、カウンセラーの協力のもと、同じ授業時間と変わらないよう実施曜日を分散させる等の調整が必要である。さらに、家庭の支援が必要な対象生徒の保護者の相談を増やしていくよう働きかける必要がある。多様な支援や指導を直接行っている先生方のカウンセリングが必要であるとも考えており、今後、より一層の派遣時間確保を望む。	
家庭への情報提供及び情報共有を常に行う。(各学年)	成績や欠席状況など生徒の状況を細かに家庭へ連絡することができた。	家庭へ連絡しても電話が繋がらず、留守番電話に録音しても折り返しの連絡がない家庭もあり、保護者への個別の連絡についてメールの活用等勤務先・連帯保証人への連絡を含めて多様な手法を導入し対応のスピードについても検討する必要がある。	
日頃からアルバイトを通して社会体験を進める。(各学年)	アルバイトを通して体験的に学ぶものも多く、コミュニケーション能力が自然と向上している生徒もいる。	アルバイト体験は、社会性とともに学校とは異なるコミュニケーション能力や自尊感情、自己肯定感、有用感などの「生きる力」を高める効果が大きいので、これからも積極的に情報提供をすすめていく。	
各種資格検定試験について、放課後や休日に補習を実施し、資格取得に向けた指導を推進する。(工業系列)	数多くの資格検定合格者を輩出する好成果をあげた。工業系列においては、工業部会主催の工業技術顕彰制度で、金賞3名、銀賞1名、顕彰2名の表彰者を出すことができた。全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター制度では、ジュニアマイスター特別表彰2名、ゴールド2名の表彰者を出すことができた。	資格取得指導の更なる推進とともに、資格取得以外の地元企業や産業界等と連携した起業家教育の実施についても段階的に検討していく。	
カウンセリングマインドの精神に基づいた声掛けの実施。(各学年・各専門部)	小中学校で不登校を経験した生徒が、本校への入学後には概ね単位を修得して進級・卒業している。また市のこども相談支援課との協力し、生徒の実態把握に努めた。	スクールカウンセラーの活用や保護者面談等、関係機関との連携の充実を図りながら、さらに生徒が登校しやすく「安心できる」雰囲気づくりについて組織的に生徒支援的な観点で取り組む必要がある。	

4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備 (1) ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。 (3) 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。 (4) 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	2.5
取組	成果	課題と改善策	
各HR教室にプロジェクタを利用して画像や映像を用いた視覚的な授業展開ができるようになり、生使用タブレットを利用した共有の授業展開ができる環境が整った。生徒が映像等を見易くなるよう白色のマグネット式ロールスクリーンを一部の学年だけであるが、今年度より試験的に取り入れた。(ICT委員会・教務部)	タブレット、プロジェクターの導入から数年が経過し多くの教科で授業に活かしている。視覚に訴える授業展開ができ、生徒がわかりやすく指導ができるようになっている。マグネットスクリーンは、素早く取り付け取り外しができるため大変好評であった。	貸出用タブレットは、各HR教室での管理しており、施錠可能な保管ロッカーがなく管理上の整備が急務である。また、温度管理が不十分となり、不調のタブレットが増したため必要数が足りていない。市教委と連携したタブレットを使えない生徒の解消が急務である。マグネット式ロールスクリーン等の導入による授業のUD化が進んでいる。	

5 家庭地域社会一体となった教育の充実 (1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。 (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。 (3) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	3
取組	成果	課題と改善策	
体育祭・文化祭などの各行事において、近隣の方々を招待し、学校と地域が連携し、行事を実施する。(生徒指導部)	今年度は、体育祭の玉入れ競技に、保護者の方、コミュニティ・スクールの方が参加された。文化祭では、地域の方や外部の方に参加していただいた。	今後も、体育祭や文化祭に引き続き地域の方や保護者の方に参加いただけるよう、早期から検討・準備を行う。年間を通して学校への理解を深め地域の方と生徒が関わる機会を増やせるよう「開かれた学校づくり」に取り組んでいく。	

教育目標 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.2	3
取組	成果	課題と改善策	
社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」の実現に向けて、普段から積極的な声かけ、面談週間を設置するとともに、生徒情報を共有する場を定例化し、情報共有を密におこなう。(各学年・生徒指導部)	生徒達の表情やアンケート結果より、取組による効果が実感できている。	取組として効果は上がっているの、PTA等保護者との連携を図るなど、より効率的な運用と情報共有に一層の生徒の努める。	
各種検定取得に取り組むことで、仕事に関する幅広い知識・技術を身に付ける。卒業後の進路決定に役立つよう、より高いレベルの資格検定の取得を目指す。(商業系列・工業系列)	商業系列、工業機械系列、工業電気系列においては、専門性の高い各種検定に取組、多くの資格、検定取得の実現ができた。	授業での各先生方による指導に加え補習時間の改善等により、さらに高いレベルの資格検定にチャレンジさせる。	
夏休みのステップアップでは、自己実現に向かって努力できるように、就職組では面接練習を中心に取り組む。進学組では、志望する学校へ合格できるように学習面をサポートする。また全校一斉一般常識テストでは、一部事前予想問題を配布し、就職試験での一般常識テスト対策として基礎学力の向上を図る。その他、進路ニュースなど発行して、全校生徒に情報を発信し進路を考える機会をつくる。(進路指導部)	ステップアップできちんと取り組んだ生徒については進路先を決定することができた。また、進路HRなどを通じて進路選択に向けての意識付けをすることができた。	今年度も履歴書作成の時間は大幅に減らすことができたが、夏季休業中のステップアップに継続して出席する生徒が減った。来年度は継続して出席する生徒が増えるよう、学年進行による事前指導の充実などキャリアサポートを強化する。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.0	3
取組	成果	課題と改善策	
確かな学力の定着を図るには、まず落ち着いた環境での授業の実施が必要であると考え、多くの先生方の授業への入り込みを行う。また、スタディーサポーターを活用し、様々な角度からの学習支援を行う。毎週水曜日に基礎基本学習会を開催する。(教務部・各学年)	学年により異なるが、クラスとして授業に臨む体制の早期定着が困難であったが、落ち着いて学習できる環境を整えるまでに時間がかかったが、授業担当者以外の協力も得ていただけ整いつつある。	スタディサポーターを含めた授業中の廊下巡回を行うなどし、安心して学べる環境を整備して組織的に取り組むことで確かな学力の定着を図る。	
特別支援委員会、特別支援コーディネーターを中心に、特別支援シートの作成、とりまとめを行い、本校で支援が必要な生徒の把握に努めた。(特別支援委員会)	通級による指導の希望者の面談実施により、個別の支援計画及び個別の指導計画の整理を行った。	通級対象生徒が効果的に支援を受けられるよう年間指導計画や個別の支援計画を作成する必要がある。また、生徒の現状に応じて「通級による指導」が展開できるように考える必要がある。	
通級指導教室の整備、通級指導内容を精査し、本校によりあった取組を目指した。(特別支援委員会)	通級による指導を行う教室が固定化し、落ち着いた環境が整い、受講生も安心して教室に迎えるようになった。	支援・指導の充実に向けて専任の通級担当、特別支援専門の教員の配置が望まれる。通級による指導についてひとり一人の実態に応じたカリキュラムや実施内容の指導体制の見直しを行う。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 学ぶ力と健やかな体の育成</p> <p>・これから、外国籍の生徒や発達特性をもつ生徒が増えてくるだろうという見通しのもと、個々が学ぶ力を確実に身につけさせていくための授業の工夫に、一層努力してほしいと思います。 ・複数の教員で学習の支援や生徒の見守り、声かけなどがあり、聞きやすい空気ができていることが学ぶ力の育成につながっていると思います。</p>	3.3
<p>2 多様性と包摂性のある教育の推進</p> <p>・生徒の様々な課題の背景には、必ず家庭環境が影響しています。これからの指導に、家庭支援を中心にしていく福祉機関との連携が必要不可欠のものになります。何気ない日々の情報であっても共有できる関係性をワーカーや地域の支援者と構築し、改善に向けて話し合えるような体制づくりを定着させてほしいです。 ・登校してくる生徒一人ひとりに声かけをして迎えられている先生や、廊下、教室内でも配慮を要する生徒に声かけをされている姿をよく見かけました。自分を出しやすい温かい空気を感じました。</p>	3.3
<p>3 豊かな心の育成といじめ防止の取組</p> <p>・先日の生徒さんとの意見交換会は大変良かったと思います。生徒さんが先生方にとても信頼を置いている様子が見られ、人間関係の基礎となるコミュニケーションが育成されていることに感動しました。何でも相談できる関係がこの学校のどこかに、誰かにあるということが、この目標であると感じさせられました。 ・生徒自身の学びの場、先生方の学びの機会がたくさん設定されていると思いました。 ・様々な資格等にチャレンジする機会があり、生徒のやる気や自信を育む機会があつていいと思いました。</p>	3.3
<p>4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備</p> <p>ICTの活用は、これからも当たり前のごとく求められてくると思います。早急な対応を望みます。また、少人数制の授業や通級による指導なども教育環境だと考えますので、なお一層の取り組みに期待をします。</p>	3
<p>5 家庭地域社会一体となった教育の充実</p> <p>・コミュニティスクールが立ち上がり、地域・行政・他団体・保護者等がつながっていくことで、新しい企画や機会が増えることは間違いない。ただ、今後、継続させていくためには学校内からの理解も協力も必要であり、また地域への情報発信・進捗状況も共有されることが必要であると思う。無理せず、ゆるやかな繋がりを続けていけるよう願います。 ・コミュニティスクールを上手く活用し、地域や保護者、また行政などが、生徒とともにできることを出し合い、最適な連携の在り方を一緒に考え、行事などに取り入れられたことで、生徒の経験や活動を広げる機会になったと思います。 ・最後のコミスクで、生徒が参加して自分たちの思いや考えを聞かせてくれたことは、琴ノ浦高校の先生方が大事にされていることや、日々の取り組みがちゃんと生徒たちの生き生きとした学校生活につながっているということが分かって、とても良かったです。「自分たちの学校」との意識が育っているんだと感じました。 ・保護者にももう少し学校の様子を伝えるようにしてほしいです。</p>	3
<p>■教育目標</p> <p>目標についての校内での共通認識をもつこと、指導内容についても明確にしていくことが一番大切であります。加えて、保護者にもしっかり協力・理解を共にしていくことを再認識されたい。</p>	3.3
<p>■研究テーマ</p> <p>生徒の特性を理解し、個々への対応に関しての取り組み方や情報の共有を持ちながら、今後も継続して取り組んでいってほしいと思います。</p>	3.3
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B